
さよならは言わない

卍・直久・卍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さよならは言わない

【Nコード】

N0786F

【作者名】

卍・直久・卍

【あらすじ】

直紀が段々真里に恋に落ちて行く…

第一話：出会う前

これは、皆さんが最近楽しくない。暇だ。とおもった時に読んでください、心が楽になりますよ。

名前は変えて書きます。

彼女、田口真里タケチマリあだ名真里

主人公、水口直紀ミズグチナオキあだ名直紀

友達、田中勇氣タナカユウキあだ名勇氣

勇氣の彼女、川本真奈美カワモトマナミあだ名真奈美

皆様、今からこれまで体験した話を書いて行きます？いつもは普通に話している

勇氣がとても嬉しそうな顔をしている…

どうしたん???

と聞くと

皆には内緒にしとけよ??

と言われ、

ゴクリとうなずいた。

勇氣は…彼女が出来ていた。

僕はビツクリして

勇氣の顔を見ると

かなり喜んでいた。

しかし、こんな出会いが待っているとは

夢にも見なかった。勇氣…!!

…誰だろ!?

勇氣の彼女の真奈美だった。

真奈美…!!

勇氣と真奈美の側にいる俺は

どれだけKYなんだ…

と思い、二人にしようと

したその時、

あの〜直紀さんですか??

…!!

うんそうだけど…

真里と言います。

友達になってください。

…??

友達??

その頃女友達が

真奈美だけだった俺は

ビックリしてオツケーをした。それから、

毎日のように、メールしたり遊んだり、

電話したり、色んな事をした。いかにも普通の人生だなあ…

なんか楽しい事は無いのかな!?

と考えていた時だった。

離れてても側に君がいる〜

九州男の雲の上の君えと言っ着信音になる。

真里からだった。

直紀!!

助けて〜

殺される。

…え??

こ…ここ殺される〜!?!ビックリした俺は

どうせ嘘やろな

と思い、寝ていると、

どれだけの時を越えてみても

消える事のない胸の傷を

抱えながら生きて行くの??

誰もが強くなりたい星に願う…

EXILEの響の音楽がなり起きた。

今度は、真奈美から電話がきた！

はい…もしもし。

もしもしじゃねえよ。

真里がどうなったか分かってるのかよ。

さっきヤンキーに捕まって、まだしばかれてるよ。

…さっきの話本当だったんだ。

俺って最低な奴だな。

真奈美??

真里がしばかれてる場所教えて??

俺、助けて来るよ。山下公園のグランドだよ。

頑張って助けてきて。

俺は元暴走族総長だ。

ヤンキーなんかぶっ飛ばせる。

と思って向かっていった。

グランドに付き、俺は大声で叫んだ。

真里…！！助けに来たぞ！！

声が聞こえたから近づいていく。

直紀…逃げて！

と言ってきた。

助けに行くと、ヤンキーではなかった。

暴走族の集団だった。

暴走族の集団が真里をボコっていた。

許せなかった。

俺はもしかしたら、

その時から

真里が好きだったかも知らない。そして、暴走族の集団をばこばこにし、

真里を連れて逃げた。

そこで、

直紀…ありがとう。

と言い、真里は記憶を失った。

俺は大急ぎで、携帯で、

救急車を呼んだ。

十分後…ピーポーピーポー

救急車がきた。

よかった。

助かった。

俺はその時決心していた。

真里が起きたら告白しようと。ん???

ここどこ???

まさか!!

と言い、真里が目を覚ました。

そして、俺の顔を見て、

安心していた。

俺は優しい声で、

もう大丈夫だよ…と言った。

第二話…守ってやる。

真里は泣き出した。

俺は、今だと思い、

俺、お前のこと、守ってやりたい。

と言った。

そうすると、真里は

それって…告白??

と言った。

俺は

そうだよ!!

おれはお前のことが好きなんだ!!

と言った。

泣きながら抱きついてきた。

よっぽど怖かったんだろうな。

俺はこいつを守っていく決心をした。次の日、勇気からメールが届いた。

今から学校来い。

まあ行くか…。

と学校に行った。

学校の前には勇気と真奈美と真里がいた。

すまん。

遅れちまった。

勇気は嬉しそうな声で言った。

直紀と真里が付き合った記念で、

今日はWデートにいくぞ!

…は??

Wデート?

まあいつか。

俺は答えた。

うん…じゃあどこ行く??

決まってるやん!!

ゲーセン!

ゲーセンなあ…

新しいプリ機出たらしい!!

…だから??

俺は気が乗らないままゲーセンについていった。

プリ機に入って、勇気は

チュープリをとろうと言ってきた。

まあ恥ずかしいけど

いつか!!

と思い、チュープリをとった。

その後、俺はタバコを吸いながら考えた。

俺で真里を守るのか??

守れるか守れないかじゃなくて

守って見せる!!

と深く決心した。そして、ゲーセンを出て、

今度は俺が、

カラオケ行かん??

と言って、

行くことになる。

俺は九州男の歌を

歌っていた。

すると皆なぜか笑っている。

なんか俺まで笑ってしまった。

タバコを吸おうとしたら、

真里に止められた。

直紀!!

タバコは害あるから

やめなさいと。まあ、いいか。

俺はタバコを捨てた。

そして、次は別の歌を入れた

永久にとともにという歌を。本当にこうなりたかった。

今思えば、俺は臆病者かも知れない。

その帰りに、真里が電話してきた。

直紀「今から会えない??」

今から??

俺は良いけど真里は大丈夫か??

うん…

大丈夫やで

じゃ学校きてやあ!!

俺は学校にいた。

直紀

おそなつてごめんね。

真里がきた。その帰りに、真里が電話してきた。

直紀「今から会えない??」

今から??

俺は良いけど真里は大丈夫か??

うん…

大丈夫やで

じゃ学校きてやあ!!

俺は学校にいた。

直紀

おそなつてごめんね。

真里がきた。

と思うと…

後ろから…

真里が首を絞められた。

真里!!

大丈夫か？？

俺は相手の顔面を思いきり殴った。

そして、相手のおやじは逃げた。

はぁ…よかったわ

俺の近くで首絞める奴とか

初めてみたわぁ…

と笑っていた

その時…

後ろから木刀で

殴られた。

俺は意識を失った。

真里…真里？？

真里…！！！！！！！！

真里は逃げ切ったようだ…

俺はヤンキーにしばかれている。

気づいたときには

体全体が傷だらけ。

そして、ヤンキー集団にしばかれていると、

ブォンブォンブォンブブブブ…

となり、

俺のダチが集まった。

直紀…大丈夫か！？

お前がやられるとは

こいつら相当強いな。

ダチがゆう。

昔の暴走族仲間だ。

いや…あいつら

急に後ろから木刀で…

ボタン…

俺は意識を失った。直紀！！直紀！！直紀！！

…はッ！？

病院で寝ていた。

大丈夫？？

…誰だろ…

その声…真里か？？

真里！！

俺は叫んだ。

真里だった。

酷いやられかたしたね。

でも悲しいね。

仕返しはしないでね。

そうこうしてるうちに、夜になった。

退院して大丈夫になり、そして、家にかえった。

次の日に、兄貴と喧嘩になり、

包丁で兄貴を刺した。

そして、鑑別所に入った。

真里を守ってやれない。

第三話…鑑別所に入って…

鑑別所では…

真里にかなり手紙を書いた。

先公が手紙を呼んで

近づいてきた。

鑑別所とかクズとはなんや??

だってほんまにクズやもん。

じゃあ早く出ていけや。

じゃあだしてって話やん。

まあ頑張り。

と言って会話して

先公はどこかに消えた。

あゝめんどくせ。

と思っていると

真里から手紙が届いた。

手紙の内容。

直紀??元気にしてるか??

真里は元気やでー。

手紙毎日呼んで毎日泣いてます。

昨日、ヤンキー軍団にしばかれてん。

でも直紀がおらんから

どうにもならなかった。

逃げるしかなかった。

でも又直紀が鑑別所に入るのはいややから

やり返すのは良いで。

といわれた。でも、俺は

殺す気でいた。

帰ってきて、真里に電話した。

すると、真里は泣いた。

そして、今から学校前きてと言って
学校前に呼び出した。

そして、もう鑑別所に入らないように

しかかれた相手呼び出して、話合いをした。

相手が俺を殴ってきた。

俺が殴っても正当防衛になる。

だから半殺しにした。

俺は笑っていた。

彼女を守れなかった分

それで全てを帳消しにした。ある日、真里が痴漢に会った。

俺は隣にいたため、見ていた。

おじさんに、てめえ殺されてえのか??

と聞いた。

おじさんは逃げた。

真里を守れた。

しかしその次の日に、

真里の携帯から電話が来た。

真奈美だった。

直紀!!

真里が：入院した。

入院：嘘だろ??

すぐさま病院に行った。真里!!

俺は病室に飛び込んだ。

真里は目を覚ましていない。

今回限りは守れなかった。

何でこんな事に。

医師に聞いた。

何者かが後ろから

銃でうつたようです。

は??

銃??

もう助からねえのかよ!!

てめえいい加減なことゆうなよ!!

助からない確率が高いです。

残念です。

俺は病院を飛び出した。

もう真里には会えない。

もう真里には会えないんだ。

真里とは別れなきゃならないんだ。

真里…真里…真里…!!!

俺は泣き出してしまった。

そうか。

俺が死んだら真里と同じ世界に行ける。

と思い、飛び降りようとした時、

微かに真里の声がしたような気がした。

そして、後ろを見ると、

真里がいた。

もう大丈夫だから。

この世界で二人で生きよう。

大丈夫って、大丈夫じゃなさそうだ。

俺は幻覚を見ているんだな。

死んで真里の元へ行く。

そう考えて、

飛び降りようとした時、

真里に手を掴まれて

ピンタをされた。

私は生きてるんだよ。

私を置いていく気なの??

川本真里は元気なんだよ。

真里…

お前、

だれに撃たれたか分からないのか？？
分かる。

でも直紀が勝てる相手じゃない。

誰だよ。言えよ。

勝てるとか勝てないとか関係ない。

殺すんだよ。

すると真里は、

ヤクザだよ。と答えた。

ヤクザ！？

無理だな。

俺は諦めた。

そして、

医師から悲しい一言が…

余命1ヶ月…余命1ヶ月って聞いた時、

おれは泣いた。

そして、ヤクザを潰してやろうと考えた。

俺はヤクザに言いに行く

川本真里を撃つたのはお前らだな？？

と聞くと、

しらを切られた。

余命が1ヶ月しかないんだよ。

謝りもなしに

謝るところか

しらを切るつもりか。

ヤクザってそんなもんなんだな。

最低だよ。みそこなったわ。

そういつて

ヤクザの事務所を出た。

まずは真里に謝ろう。真里の入院している病院に行くか。
と独り言を話していた。

俺は真里に、謝る事しか出来ない。

病院につき、

真里は寝ていた。

真里！！

起きて！！

ヤクザに話してきた。

真里を撃つたのは俺じゃないって

言うてしらされた…。

ヤクザも謝り位したらどうやねんな。

真里は泣き出した。

直紀：私死にたくない。

直紀：助けて。

俺も精一杯助けるけど

無理ならごめんな？？

真里はまだ泣いたままだ。

今日はもう帰るわ。

また明日十時には来るから

待っててな。

俺はそう言い、

病院を出た。

家の中で、ずっと考えていた。

真里は死んでしまうのか。

それとも生きれるのか。

謎が深まっていく。

神社に行き、

神様、どうか真里を生きさせて下さいと、

お願いした。

俺の命と引き換えても良いですから

真里を生きさせて下さい。

そうお願いした。

だから生きれる、そうおもってた。

そう信じてた。

しかし、真里は植物人間になってしまった。

喋りもしない笑いもしない泣きもしない

そんな真里になってしまった。

俺はもう無理だと思い始めた。

第四話…さよならは言わない…

遂に今日死にますと言う医師からの残酷な話が言われた。
俺は真里に生きてくれ。と言っていた。

しかし、

午前一時二十四分に

ピッピッピッ…ピーーーーと鳴りました。

しかしさよならは言わないよ。

俺が将来死ぬと、また真里に会える。

だからそれまではお別れだね。

お別れだけどもまた再会が絶対できる。

だからちよつとの間だけ、お別れをするけど、ちよつとも寂しくないよ。

だって、心の中では真里が側にいてくれてるんだ。

今はその真里しか居ないけど、

頭の中では絶対に真里は近くにいる。

そう信じてた。

葬式の日がきて、

葬式の会場に向かう。

ナンミヨウホーレンゲーキョー…

そんな声は要らないから

真里の声が最後に聞きたいよ。

真里が俺に死ぬ前に

手紙を置いてたらしい。直紀!?

これを見るころには

私は日本には…いや、地球には居ないでしょう。

しかし、ちよつとの間お別れをするだけだよ。

また一緒に会おうね。

それまでの間は、私は直紀のそばにずっといます。
だからちつともさびしがることはないよ。

直紀は普通に生活して下さい。

早く直紀に会いたいな。

と言って早死にだけは辞めてね。

私は大丈夫だから

直紀は長生きしてね。

天国から…いや、

直紀のそばから

私は見守っているよ。

まあゆえばお別れをしてないように。

直紀のそばにずっといます。

天国からも…直紀のそばでも、

ずっと私は直紀を見ています。

だからちつとも寂しくないよ。

イライラした時悲しい時

泣いている時笑ってるとき

真剣な時、全ての時の直紀が大好きだったよ。

直紀は私の事が好きかも知れないけど、

私のほうが直紀を思っていると思うよ。

天国に行ってからこの気持ちは変わらないよ。

私の家の私の机に筆箱が置いてあります。

その中に私の最後の言葉をかいた手紙がはいつてあります。

それを、よんで下さい。

ではそろそろお別れです。

人生を頑張ってください。

先に行っでごめんね。真里…

分かった。

今からすぐに真里の家に行くよ。

真里の家に行き、

真里の筆箱の中の
手紙をみた。

いつまでも天国に行ってから私も私は直紀が好きだよ。

by 川本真里…。

真里が死んだ…

俺も死にたいよ。

しかし死ねないんだ。

俺は全国で自殺してる奴が憎い。

何故かは、真里のように

生きてくても生きれないような人、

生きてくても殺されて死んでしまう人、

とりあえず、死にたくなくて死ぬ人もいっぱいいるのに、

自殺をして、自分から天国のほうにいくんやで??

病気で死んだりして、天国とかに行く、

これは可哀想やと思うよ。

ほんまにこれは分かる。

交通事故とかで命落とす。

これも分かる。

可哀想やわ。

でも、自殺だけは分かん。

何の為に自殺するん??

俺はそれだけは分かん。

痛いだけやんけ。

同情できひん。

だからもう、自殺者が出るのは

避けて欲しいわ。

真里のように病気とかなら

わかる。

でもそんなんで、死ぬなよ。

俺も死にたいと思った事もある。

でも死にたくなくなる。

だからまだ生きてる。

だから、

皆も生きてくれ。

俺はその時ずっとこう思ってた。

そして、真里…

天国であおう…

決してさよならは言わないよ。

これまでありがとう。

そしてこれからもよろしくな。

天国で待っててくれよ。

俺も頑張って人生を生きて

死んだら真里を追いかけるから。

さよならは言わないで

おわかれだね。

さよならは言わないよ。

また会える日を心から待ってます。その後、真里を焼いてる途中、

真里がこれまでありがとうと言ったような気がした。

俺はそしてこれからもよろしくなあゝ

と叫んだ。

俺は人生を頑張って生きていくんだ。

天国から見ていてくれよ。

頑張るから、

天国から見守っててくれよ。

さよならは言わないよ。

これまでありがとうな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0786f/>

さよならは言わない

2010年10月21日14時06分発行